

令和 5 年 度
宮崎国際大学 教育学部
総合型選抜 (第 2 回)

試 験 問 題
【小 論 文】

受 験 番 号
氏 名

問題

次の文章は、大学教授の玄田有史^{げんだゆうじ}さんが、中高生に向けて行った講義の一部です。玄田さんは、「桃太郎」と「浦島太郎」にはそれぞれどのようなすぐれた資質や能力があると述べていますか。また、それを踏まえた上で、これからの時代や社会を生きていく子どもたちに、あなたはどんな資質や能力を育てたいと考えますか。600字以内で述べなさい。

みなさんはJAXA（宇宙航空研究開発機構）をご存知でしょうか。宇宙飛行士の選抜試験の面接では、「あなたは桃太郎か浦島太郎のどちらが好きですか」という質問が出たことがあるそうです。

桃太郎の素晴らしい点は二つあります。一つは課題設定能力です。鬼が人間から奪っていった金銀財宝を取り戻し、困った人に返すという明確な課題設定をしています。二つめは課題遂行能力です。桃太郎は思うだけでなく実際に行動して達成しています。

対して浦島太郎ですが、彼は積極的に働く人ではありません。職業は漁師ですが、物語のなかでは漁もしていないし、餌もルアーも持っていない。あまり釣ろうという気持ちがないですね。亀がいじめられているところに偶然出会ってしまったがために、彼の人生が大きく動き出すのであって、自発的に何かをやるタイプではない。

一方、桃太郎のいいところは他にもあります。彼は一人で鬼ヶ島に行くのではなく、チームを作って行きました。つまりは、リーダーです。

私はリーダーに一番必要なものは、自分の弱さに対する自覚があることだと思っています。全て自分でできると思っている人はリーダーには向いていない。桃太郎は剣の達人ですが、もしかしたら負けるかもしれない、鬼だって強いはずだと考えて猿、犬、キジを仲間にしました。桃太郎が弱さを自覚して、もし自分がやられそうになったら助けてくださいと心の底からお願いするからこそ、彼らもついてくるのです。

浦島はそういうことをやりません。助けた亀に「竜宮城にご招待します」と誘われて、後先考えずに行ってしまいます。竜宮城に着いたら楽しいわけです。しかし突然、「そろそろ帰らなきゃ。お家のことも気になってきたし」と、竜宮城を離れます。そして地上に戻って、お土産に渡された玉手箱を開けてしまう。あまり良いところがない。

以前、宇宙研究の世界的権威の村山斉さんという東大の先生とお話をしたことがあり、そこで気づくことができました。「村山先生は宇宙研究の権威で」とお話をしても、彼はとても謙遜しているのです。どうしてそんなに謙虚なのかと尋ねると「宇宙のことはわかっていないですから」と断言されました。

宇宙について証明されていることはわずかしかなかくて、こういう可能性があるとしか言えないことばかりだそうです。だから村山先生は「宇宙について偉そうに語れるわけがない」

と仰います。宇宙研究で非常に有名な方でもこうなのです。

確かに桃太郎は、目標を持ち、それを実現する能力も、協調性や思いやりもあります。しかし宇宙は、桃太郎のような素晴らしい人でもどうなるかわからない、不確実で未知の場所なのです。実際に宇宙では、日々さまざまなトラブルや予想外の事態が起っています。どんなに聡明な人が集まって地上と宇宙で通信しても、乗組員の生命やプロジェクトの存続に関わる事態に、どう対処すればいいかわからない。

浦島太郎は成功者ではなく、さまざまな偶然に人生を翻弄された人ですが、彼にもいいところがあります。それは、わからないなりにその場その場で何とかできる点です。亀がいじめられているのを見れば、ダメだと言って止めに行き、竜宮城に行くときも「どうしよう」と迷うことはなく好奇心に従って行動します。彼は完全な答えを持っているわけではないけれど、自分で判断しているわけです。

もう一つ、浦島は素晴らしい資質を持っています。実は、浦島太郎伝説と同じような話は世界中にあるのだそうです。どの伝承も「竜宮城でもらった玉手箱を開けたらおじいさんになってしまい、自分の知っている人はみんな死んでしまっていた」という部分は共通しています。しかし、浦島がおじいさんになったあとの展開には、海辺に座って海を見つめる、何も言わずにどこかに行ってしまう、鶴になって空の彼方へ消えてしまうなど、いろいろな終わり方があります。

この世界中さまざまにある浦島伝説の終わり方に関して、共通することが一つだけあります。彼は後悔をしていないということです。あのとき亀を助けなければ、竜宮城に行かなければ、玉手箱をあけなければ、と言って泣き崩れた浦島太郎は、世界中にどこにもいません。

宇宙飛行士で一番大事なのはこの部分ではないでしょうか。聡明で考える力、行動する力があることはもちろん大事ですが、一番大事なのは、わからないなりに何とかして、仮にそれが良い結果にならなかったとしても、精一杯やったんだと言える気質です。そうした気質が、宇宙という未知で不確かな場所で仕事をしていくうえでは必要だと思っています。

そのうえで、最も宇宙飛行士に向いているのは、浦島太郎と桃太郎を掛け合わせた「浦島桃太郎」ではないかと思います。

(玄田有史「希望をつくる」による・一部省略がある)